

「7節 EU諸国 -項目ごとに整理して考察」

《ヨーロッパ》

海外旅行に行くとしたらどこに行きたいか友達などに聞くと、必ずヨーロッパの国がいくつか出てくる。ヨーロッパの語源は、ギリシャ神話に登場する美しい姫の名前「エウロペ」とされている。そのヨーロッパの(精神的、文化的)ルーツは、ふたつの“H”にあるといわれる。それはヘレニズム(ギリシャ文化)とヘブライズム(キリスト教)である。それほどキリスト教はヨーロッパの文化、思想、芸術、生活などに大変大きな影響を与えている。

またヨーロッパの近代化の中で生み出された民主主義や人権の思想は、世界に大きな影響を与えた。服装や様々な制度や文化などでも、ヨーロッパ起源のものが世界の標準になっていることが多い。

このようにヨーロッパは世界に大きな影響を与え指導的立場にあったが、最近ではヨーロッパ連合(EU)にみられるように新しいヨーロッパのあり方を模索している。ここではヨーロッパの自然環境、文化、産業などについて、基本的なことを学ぼう。

【1】教科書P279、地図帳P57~58、P61~62を参照、

- ・ヨーロッパの中央部は西岸海洋性気候で、緯度が高いので夏は熊本の4~5月くらいの気温で、日本のような真夏がない。冬はヨーロッパ沖を流れる北大西洋海流(暖流)によって暖められた大気が、偏西風によってヨーロッパに吹きつけるので、緯度のわりにはそう寒さが厳しくない。
- ・南部の地中海沿岸は、夏は中緯度高圧帯の支配下に入り乾燥し、冬は高緯度低圧帯の影響で適度な降水がある地中海性気候。

【2】教科書P280~281を参照、学習書P228~229を参考

- ・ヨーロッパにはロシア連邦を含めて45の国々があり多様性に富む地域であるが、最初にふれたようにヨーロッパ文化の土台には古代ギリシャ・ローマ文化とキリスト教があり、いまでもヨーロッパの思想や文化に大きな影響を与えている。

☆ヨーロッパの言語とキリスト教の宗派の分布を大きくみると…

ゲルマン語派 プロテスタント (北西ヨーロッパ)	スラブ語派 正教会 (東ヨーロッパ)
ラテン語派 カトリック (南ヨーロッパ)	

- ・西は大西洋から東は黒海に達する広大な地域がEU圏内に入った。

- ・EUは政治統合と経済統合をめざしているが、そもそもの出発点は、フランスと旧西ドイツ、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、イタリアの間で生まれたEEC(ヨーロッパ経済共同体)でありEC(ヨーロッパ共同体)であった。さらにそのルーツをさかのぼれば1948年に発足したベネルクス関税同盟(ベ:ベルギー、ネ:ネーデルラント(オランダ)、ルクス:ルクセンブルク)から始まる。これらの国々はヨーロッパでも経済的な水準が高く、比較的統合が容易に進む条件が整っていた。EUが拡大するなかで、こうした理念が維持できるのかどうか、EUは大きな課題に直面している。
- ・単一通貨ユーロはEU加盟国のすべてが導入しているわけではない。2016年6月国民投票によってEUを離脱したイギリスもユーロを導入していない。

【3】教科書P282~283を参照、学習書P224~225を参考

(⇒教科書P85も参照)

- ・ヨーロッパはかつて大陸氷河の侵食を受け(教科書P28「②・ヨーロッパと北アメリカにおける最終氷期の氷河の分布」を参照)、土壌が痩せている地域が多い。また気候も冷涼な地域が多く、農業を行うための自然条件には恵まれていない。そのようななかで、いかに工夫して合理的に農業が営まれているか考えてみよう。
- ・混合農業は、かつて氷河に表土を削り取られやせた土地をうまく利用するために、耕地を3つに分け、その1つを3年に1回休ませ、地力の回復を図るという中世の三圃式農業が発展したものである。
- ・酪農は気候が冷涼で穀物栽培に適さない地域で行われ、おもにチーズやバターなどを生産する。
- ・園芸農業は野菜や果樹、花卉などを栽培する農業で大都市近郊において盛んである。
- ・地中海式農業は、夏は乾燥、冬は湿潤という雨の降り方に対応した農業である。つまり、夏は降水量が少ないので、比較的乾燥に強い柑橘類やコルクがしなどを、冬は降水量が多いので、小麦などを栽培する。
- ・このようにヨーロッパでは、自然環境の特性を生かした合理的な農業が営まれている。

【4】

教科書P284~285を参照、学習書P172~173を参照

- ・「青いバナナ」という名称の由来は、教科書P284の欄外用語に書いてあることのほかに、この地域は衛星写真で見ると、経済活動が活発で青白く光って見えることから「青いバナナ」ともよばれる。
- ・「第三のイタリア」についても教科書P285の欄外用語と学習書P227を参考にしてほしい。この地域は皮革製品など世界的な高級ブランド品の産地である。

(裏面に続く)

《ロシア》

ロシアはヨーロッパからアジアにまたがる広大な国土をもつ国である。東経60度の経線とほぼ一致するウラル山脈を境に、アジアとヨーロッパに分かれる。1917年のロシア革命によってこの地域を支配していた旧ロシア帝国は、世界最初の社会主義国になった（旧ソ連）。

帝政ロシアの時代シベリアは流刑地であったが、石油、石炭、森林、水力など豊富な資源があり、その開発には日本の技術や資本に期待が寄せられている。極東ロシアは日本海を挟んで日本と交流がさかんであり、ロシアとの航路や飛行機の路線をもつ都市ではロシア語の道路案内や看板もみられる。

【5】

(1) 地図帳P75～76、教科書P291を参照

(2) 教科書P291を参照、学習書P230を参考

- ・ヨーロッパからアジアにまたがる広大な国土をもつロシアは自然環境も多様であるが、国土の大部分が冷帯（亜寒帯）～寒帯に属する。

【6】 教科書P292～293を参照、学習書P231を参考

- ・ロシア正教はキリスト教のひとつの宗派である。
- ・ロシアの前身の旧ソ連は、前にふれたように世界最初の社会主義国家であったことも知っておこう。

【7】 教科書P294～295を参照、学習書P232を参考

- ・ロシアは寒冷な気候の地域が多いため、農業が可能な地域は限られている。
- ・肥沃な土壌が分布するウクライナからロシアにかけての黒土地帯は、肥沃な土壌と温暖な気候のため農業がさかんで、企業的な穀物栽培が行われている。
- ・⑦ 教科書P127を参照

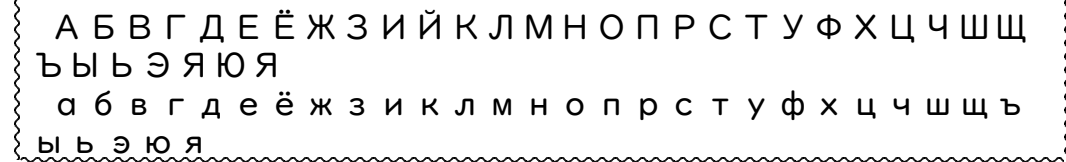
【8】 教科書P290を参照

- ・日本とロシアは、北方領土問題（教科書p.216）など解決すべき課題もあるが、近隣諸国としての緊密な関係を築いてきた。
- ・極東ロシアではアジアからの旅行者が増えておりウラジオストクを中心とする沿海地方を訪問した日本人は2018年に初めて2万人を超えた。

キリル文字とは…

ロシア語を表記するキリル文字は正教会の宣教師がスラブ民族に布教するために、ギリシャ文字をもとに考案したといわれている。オリンピックなどで、ロシアの選手のユニフォームに書かれているキリル文字を見たことがあるだろう。最近ではメールなどの顔文字にも使われる。

キリル文字のアルファベット



ロシア料理について

ロシア料理は主にウラル山脈以西の伝統料理を元に発達したロシア人の伝統料理のことを言います。

《ロシア料理とは》

ロシア料理はとてつもない厳しい気候や風土で暮らす農村住民達の間で生まれた料理のことです。

魚、キノコ、野生の鳥獣の肉（ジビエ）、ベリー、蜂蜜を使ったものと、ライ麦、小麦、大麦、キビ等の穀物は、パンやパンケーキ、粥、クワス、ビールやウォッカの原材料にもなります。スープやシチューは、貯蔵しやすい食材や魚、肉を中心としたものです。また冬が長く厳しいため、保存食として貯蔵する目的の料理が多く、野菜のピクルス、果物のジャムといったものが多く生み出されました。ロシアの伝統的な調理法は、鍋に蓋をしオーブンで加熱した煮込み料理やオーブンをを使った焼き物、肉などをローストしたものに、パンやジャム、漬け物、シチューなどです。

《ロシア料理の歴史》

16～18世紀にわたったロシアの領土拡張による影響力と支配力の拡大により、ロシアに領土にした国々から洗練された料理と調理技術をもたらしました。燻製の肉や魚、サラダや緑色野菜、ペーストリー料理、アイスクリーム、チョコレート、ワイン、蒸留酒などが外国からロシアに輸入されたのはこの時代からです。結果として伝統的なロシア料理と新しい食材との創造的な統合でロシアの食文化は劇的に変化します。

《ロシア料理の代表的なもの》

スメタナというサワークリームと牛肉の薄切りをソースで和えたビーフストロガノフ、また野菜と肉で煮込んだスープのボルシチ、ピロシキ、ウォッカなどはロシア独自の料理として日本でも有名でしょう。

インターネット「料理は文化～ロシア料理と文化～」より)